

特集

みんなので防災意識を高めよう！ 命を守る防災教育

災害への備えは大丈夫ですか？

地震や津波などの自然災害は、いつやってくるかわかりません。災害が発生した時慌てないように、「防災について話し合う」「非常袋を用意する」「避難経路を確認する」など、日頃から防災意識を高め、災害に備えておきましょう。



「世界津波の日」リーフレット

11月5日が「世界津波の日」として制定されたことを受け、防災意識のさらなる向上のため「世界津波の日」リーフレットを作成し、県内すべての児童生徒に配付しました。「世界津波の日」の意義やその由来となった「稲むらの火」の故事、津波発生時の行動などを掲載しています。各学校において防災学習や避難訓練の事前事後学習等で活用しています。

確実に逃げ、生き抜くために

自分の命を自分の努力によって守る「自助」

○沿岸地域児童生徒・住民合同津波避難訓練

「世界津波の日」の11月5日、「稲むらの火」にゆかりのある広川町では、率先避難者を育成するために、沿岸地域児童生徒・住民合同による津波避難訓練が実施されました。訓練では、濱口梧陵の教訓を胸に刻み、約160年前、村人たちに逃げるよう呼びかけた廣八幡神社に向かって避難しました。



廣八幡神社に向かった避難訓練



電車からの避難誘導訓練

地域防災リーダーの育成

身近な人たちがお互いを助け合う「共助」

○高校生防災スクール

防災への意識を高め、地震や津波などの自然災害に備えるとともに、地域防災の担い手として社会貢献できる青少年の育成が求められています。このため、関係機関や地域の連携・協力のもと、防災・減災に関する専門的な知識や技術を習得する防災スクールをすべての県立学校で実施し、地域防災リーダーの育成を図っています。



搬送法の研修



段ボールによるパーティション組立

防災は世界共通の課題

「世界津波の日」高校生サミットin黒潮



サミットにて

11月25・26日、海外29か国と国内から約360人(海外約250人、国内約110人)の高校生が高知県黒潮町に集まり、津波防災について討議する「世界津波の日」高校生サミットin黒潮」

が開催され、本県からも日高高校の生徒が参加しました。高校生サミットでは、津波被害の実態や災害への備えについての意見交換、津波防災や復興などに関する分科会、高台への避難訓練などが行われました。サミット開催に先立つ11月23日には、参加する海外の高校生のうち16か国約130人が来県し、本県の高校生と交流しました。24日には、耐久高校の生徒との交流や「稲むらの火の館」の見学、フィールドワークなどを行いました。



広村堤防にて



「稲むらの火の館」にて

ふるさと和歌山の先人から学ぼう！

○濱口梧陵の偉業を伝える「稲むらの火の館」

広川町には、濱口梧陵記念館と津波防災教育センターの2施設からなる「稲むらの火の館」があります。ここでは、濱口梧陵の偉大な功績やその生涯を紹介するとともに、津波について学習することができます。



先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える

一命と文化遺産とを守るために



地震や津波などの自然災害から自らの命と財産(文化遺産を含む)を守るために、過去に和歌山県内で起こった災害を人々に伝え、被害が予想される地域に残る文化遺産を把握しておくことが大切です。冊子「災害の記憶」を未来に伝える」は、地域別に過去の災害を取り上げ、関係市町村内の各世帯に配付されています。これまでに、[御坊市・美浜町・日高川町・那智勝浦町]と[すさみ町・串本町・太地町]が発刊され、次号の[由良町・印南町]は、平成29年1月に発刊される予定です。

和歌山県立博物館 検索